台風９号、10 号接近に伴う農作物管理

令和３年　８月　６日
アグリあなん営農部

台風９号、10 号の接近が予想されますので、農作物対策についてご配慮下さい。
また、台風通過中は危険ですので圃場へは出向かないようにして下さい。

○ 水　稲

大雨による浸・冠水田では速やかに排水に努めて下さい。

・早期水稲
強風での葉先痛みによるいもち病対策として
ブラシンフロアブル　　１０００倍（60～150ℓ/10a）（収穫７日前まで/２回以内）
刈り取り時期を考慮して散布して下さい。

・普通期水稲
葉先痛みによる病害の侵入予防として
ブラシンフロアブル　１０００倍（60～150ℓ/10a）（収穫７日前まで/２回以内）を散布して下さい。
また、ウンカ類の飛来も懸念されますので、発生を確認後にスタークル等殺虫剤を散布して下さい。

○ 野　菜

施設野菜（共通項目）

事前対策
・ハウスは取り付け金具の締め直しやマイカー線の固定、側杭の補強を行うと共に防風ネットなどの点検を行って下さい。
・ハウス周辺に排水溝を設けて下さい。

露地野菜（共通項目）

（１）浸水・冠水した圃場は、早急に排水に努め、適正水分に戻して下さい。
（２）べたがけ資材で被覆していた圃場は、台風通過後できるだけ早く除去して下さい。
（３）茎葉に付着した土は水で洗い流して下さい。
（４）各作物の農薬登録基準を遵守して、殺菌剤を散布して下さい。
（５）株元が露出していたり、降雨により土壌が締まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せするとともに、畦全体を軽く中耕し通気性をよくして下さい。
（６）豪雨により肥料の流失が考えられる場合は、速効性の肥料を追肥して下さい。
草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布を行って下さい。

いちご

・育苗ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに、冠水した育苗床は、早急な排水に努めて下さい。

・親株や子苗の草勢回復を図る場合は、メリット青５００倍等の薄い液肥の葉面散布を行って下さい。

茎葉に付着した土を水で洗い流し

オーソサイド水和剤 80　１５００倍(100～300ℓ/10a)(収穫３０日前まで/３回以内)を散布して下さい。

炭そ病が懸念される場合は

ゲッター水和剤　　１０００倍(100～300ℓ/10a)(収穫２１日まで/３回以内)を散布して下さい。

冠水した苗に対しては、水洗いに努め薬害の回避のため１日置いて薬剤散布を行って下さい。

疫病対策として

ランマンフロアブル　５００～１０００倍(50mℓ/株)(育苗期　株元潅注/２回以内)

チンゲンサイ

（１）ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに、溝切りなどにより排水対策を実施して下さい。

（２）べたがけ資材で被覆をしていた圃場は、台風通過後できるだけ早く除去して下さい。

（３）茎葉に付着した土を水で洗い流し、傷んだ株は早めに廃棄して下さい。

（４）軟腐病の恐れのある圃場では殺菌剤を散布して下さい。

スターナ水和剤　１０００倍(100～300ℓ /10ａ)(収穫７日前まで/２回以内)

サンチュ

（１）ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに、溝切りなどにより排水対策を実施して下さい。

（２）べたがけ資材で被覆をしていた圃場は、台風通過後できるだけ早く除去して下さい。

（３）茎葉に付着した土を水で洗い流し、倒伏や傷んだ葉は早めに廃棄して下さい。

軟腐病予防として

バリダシン液剤５　８００倍(100～300ℓ /10ａ)(収穫７日前まで/３回以内)を散布して下さい。

ネギ

（１）ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに、溝切りなどにより排水対策を実施して下さい。

（２）草勢の回復を図る場合には、薄い液肥の葉面散布等を行って下さい。

（３）葉に付着した土は、水で洗い流して下さい。

トップジンM水和剤　１０００倍（100～300ℓ /10ａ)(収穫７日前まで/３回)を散布して下さい。

急激な高温に注意して下さい。

アスパラガス

（１）ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに溝切りなど、排水対策を実施して下さい。

（２）斑点病・灰色かび病予防のため

アフェットフロアブル　２０００倍（100～300 ℓ /10ａ）（収穫前日まで/４回以内）を散布

オクラ

（１）浸水・冠水した圃場は、早急に排水に努め、適正水分に戻して下さい。

（２）茎葉に付着した土は、水で洗い流して下さい。

（３）病害の発生の恐れのある圃場では、それぞれの作物、病害に適した登録農薬(殺菌剤)を散布して下さい。

（４）豪雨等により株元の露出や、土壌が締まっていたら、天候の回復を待ち株元へ土寄せするとともに、畦全体を軽く中耕して通気性をよくして下さい。

（５）倒伏しかかった株はあわてて起こさず、樹勢の回復を待ってから行って下さい。

（６）豪雨により肥料の流失があると考えられる場合は、速効性の肥料を施用して下さい。
草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布を行って下さい。

（７）暴風雨によって折れた枝や、傷ついた果実は早めに丁寧に除去して下さい。

・オクラ

トップジンM水和剤　１５００倍（100～300 ℓ /10ａ）（収穫前日まで/３回以内）

ユニフォーム粒剤　　９kg／１０ａ（株元散布）（収穫前日まで/３回以内）

○ 果　樹

・事前対策

ハウスみかん・ハウスすだち・ハウス不知火

（１）ハウス等は、取り付け金具の締め直しやハウスバンド・マイカー線の固定、側杭の補強を行って下さい。防風ネット・ビニール等を巻き上げている場合は、よく点検しておいて下さい。また、台風通過中は換気扇を回し、ハウス内を負圧にしておくとよい。

（２）排水溝の設置や清掃により、浸・冠水を防止して下さい。

（３）ハウスすだち(加温)収穫終了園では、かいよう病の感染予防散布をして下さい。

・事後対策

ハウスみかん

（１）ハウス等の施設に被害があった場合は早急に修理して下さい。

（２）ハウス内に浸水があった圃場は、出来るだけ乾燥に努め、丁寧な取り扱いにより腐敗果が発生しないよう心がけて下さい。

（３）ハウス内に冠水した果実がある圃場は、収穫を３日間中止し５日後から出荷して下さい。

ハウスすだち

・大雨により冠水した圃場では、果皮が軟化し腐敗の発生が心配されるので、出荷中の圃場は収穫を５日～１０日遅らせるとともに、土壌を乾燥させるよう努めて下さい。

（収穫終了している圃場）

・収穫終了圃場は、かいよう病の感染・蔓延を防止して下さい。

ドイツボルドーＡ　１０００倍（200～700 ℓ /10ａ）（クレフノン２００倍加用）などを散布

露地みかん

（１）台風通過後、樹体倒伏があれば、露出した根が乾かないうちに起こして株元へ土寄をして下さい。

（２）枝折れしたものはなるべく早く切り返し、切口にトップジンMペースト（３回以内）又はバッチレート（５回以内）を塗布して下さい。

（３）葉や枝損傷部からの病害侵入対策を実施して下さい。

黒点病　ジマンダイセン水和剤　５００倍（200～700 ℓ /10ａ）（収穫３０日前/４回以内）

（４）風傷果の発生が多くなる可能性が高いので、摘果時にきれいな果実を残すよう心がけて下さい。

（５）新葉が少ない表年の樹で落葉が多い場合は、摘果を強め着果量を少なくして下さい。
尚、着果量が少ない樹については、品質向上のため収穫直前の樹上選果で対応して下さい。

（６）着果量が極端に少ない十万温州樹については、９月末までに全摘果とし、次年度の着果量確保に努めてもよい。

露地すだち

（１）台風通過後、樹体倒伏があれば、露出した根が乾かないうちに起こして株元へ土寄せを行って下さい。

（２）枝折れしたものはなるべく早く切り返し、切口にトップジンMペースト（３回以内）又はバッチレート（３回以内）を塗布して下さい。

（３）露地すだちは収穫前にあたるため、収穫直後にかいよう病防除の徹底をかかって下さい。

露地ゆず

・黒点病が後期感染時期に入り防除が中心となります。栽培管理暦を基準に黄玉・青玉出荷体系に合わせ降雨後の防除を行って下さい。

黒点病防除

ストロビードライフロアブル　２０００倍（200～700 ℓ /10ａ）（収穫１４日前まで/３回以内）
または、

オキシンドー水和剤80　８００倍（200～700 ℓ /10ａ）（収穫３０日前まで/３回以内）

を散布して下さい。

○　花　き

（１）浸水・冠水した圃場は速やかに排水し、軽く中耕を行って根の活力の回復を図って下さい。

（２）倒伏したものは、速やかに支柱等を修復し、株元から起こして茎曲がりを防止して下さい。また、殺菌剤をたっぷり散布し、葉についた汚れを落とすとともに病害の発生を防止して下さい。

（３）湿害等の影響で根が弱っている兆候が見られる場合は、液肥の葉面散布を行って下さい。

（４）倒伏・転落した洋ランの鉢は速やかに復旧し、付着した土砂を水洗いした後、疫病や軟腐病等の対策として殺菌剤の散布を行って下さい。

ケイトウ

（１）倒伏した場合は、軸の曲がりを防止するため、太陽の直射を受ける前までにネット全体を起こし復旧を行って下さい。

（２）病害防除については、作型により使用薬剤が異なるため降雨の合間に薬剤ローテーションを参考に防除を行って下さい。出荷直前の薬剤使用については、担当者に確認して下さい。

○　畜　産

（１）畜舎の冠水後は疾病等の発生予防を心がけ、十分な観察を行い早期発見に努めて下さい。

（２）濡れた飼料は腐敗を起こしやすいので廃棄して下さい。

（３）尿溜槽を設置している場合は、雨水で増水しているので、バキュームカーで汲み取り晴天を見計らって散布し、速やかに耕転して下さい。

（４）疾病やケガが発生していないか十分な観察を行い、早期発見に努めて下さい。